

弘前大学農学生命科学部地域環境科学科農業土木プログラム

第2回外部委員会（教育目標評価委員会・教育システム改善委員会）合同会議 記録（案）

日時：平成16年3月13日（土） 14：00～16：30

場所：農学生命科学部445室

出席者：〔外部委員〕 山形, 笹森, 田中, 砂沢, 櫻田(隆), 桜田(清), 山田

〔プログラム教官〕 万木, 工藤, 佐々木, 泉, 角野, 加藤, 谷口, 高橋, 桧垣, 藤崎

進行：工藤 記録：藤崎

前回の記録の確認

〔外部委員〕の出席者に「笹森」を追加し、資料2-1の通り承認された。

議題

〔教育目標評価委員会〕

1. 教育理念

プログラム教官より、前回配布の冊子資料に基づき説明があり、文中「農業工学」は「農業土木学」の誤記であること確認の上、了承された。

2. 学習・教育目標

プログラム教官より、前回配布の冊子資料に基づき説明があり、外部委員から学習・教育目標Bの「農業土木学を発展させる」の意図について質問があったが、そもそも目標Bは「発展」につながる基礎を重視するという趣旨の文言であるとの説明があり、了承された。

3. 学習・教育目標達成に必要な授業科目

プログラム教官より、前回配布の冊子資料と資料2-4に基づき説明があった。なお、同資料1枚目(F)の評価基準欄にある「地域環境工学実験」は「同実習」の、4枚目1.学習教育目標(B)欄の「農業工学」は「農業土木学」の誤記である。

外部委員から、A～Fの学習・教育目標別に科目ごとの重みをつけた結果として、一部の科目の成績が重視されることになる、との指摘があったが、意見交換の後、目標ごとの積み上げを踏まえたものでありこの程度の科目間の差は許容範囲であると、了承された。

また、地域環境工学実験と同実習についてのみ優であることを評価基準としていることについて、この科目は、それ以前に学んだ基礎知識を具体的事実として把握し、実社会での活用を学習するためのものであり、実践的教育を重視する観点から定めたとの説明があり、了承された。併せて、実習については実習先の担当者からの評価のみではなく実習中の日誌、実習後の報告書や報告会の発表も含め評価していることの補足説明があった。

さらに外部委員から、目標Eの国際性に関係する科目が少ない、あるいは、Eの国際性やFの倫理観については、直接関連する科目を増やすのではなく個々の授業の内

容で補う部分が多いのではないかと、との意見もあり、今後、長期的な課題として検討していくこととなった。

4. 学習・教育目標と JABEE 基準との対応（資料 2－4）

プログラム教官より、資料 2－4 に基づき説明があり、了承された。

5. その他

特になし

〔教育システム改善委員会〕

1. 各授業科目のシラバス

プログラム委員から、資料 2－5 にあるように、前回の指摘を踏まえ、出席点の取り扱いやシラバス記載内容を改善したことの説明があり、了承された。

2. 授業科目の授業記録と成績評価

プログラム委員から、資料 2－2 に基づき授業記録の作成などに取り組んでいることを説明した。外部委員から、座学における出席点の取り扱いをもう少し大きくしても良いのでは、との質問があったが、出席はして当たり前であり、成績評価は 1 回の期末試験だけでなく、途中段階での試験などを含めて行うことになっていることを説明し、了解を得た。

3. 卒業研究の評価方法

プログラム教官から、これまで指導教官にゆだねられていた部分の多い卒業研究について統一した対応をするため、シラバスを学部内で最も早く作成し、資料 2－6 のような申し合わせ案を検討中であることの説明があった。外部委員からの質問に対し、

- ・コンタクトタイムの 270 時間は JABEE の定める総学習保証時間 1800 時間から他の授業の時間等を勘案して定めたもので、実態としてはそれをかなり上回る卒業研究指導が行われている。
- ・指導教官の評価比率について、卒業研究は基準に定める 70 点ではなくぜひ 80 点以上の優を取得してほしいが、そのためには、その他教官の 20% の評価が重要になってくる。
- ・その他教官の評価は平均で行い、コンタクトタイムは学生が教官と一緒に活動した時間である。

と補足説明し、方向性について了承された。

4. その他

（1）学生による授業評価アンケート

プログラム教官より資料 2－7 に基づいた説明の後、外部委員より、質問文の「講義は時間通りに行われて」や選択肢の「どちらでもない」など字句の意味が一義的に定まらず結果の解釈に問題を生じる等の意見があり、学生の学習状況の設問を増やす

なども含め、アンケートの設問の継続性にも留意しながら、7月までに再検討することとなった。

(2) その他

外部委員より、単に問題点を指摘するだけではなく改善の方向性も今後検討していきたいが、そのためにも授業を見学する等学生との接触を持ちたい旨、提案があり、学生への技術士に対する理解を得る意味からも意義あることであるので、具体的な実施方策について検討していくこととなった。

報 告

1. 受審への取組状況

前回16年度に本審査と案内したが、農業土木学会で予備的な審査を行うようであるので、いきなり本審査ではなく、16年度は予備的な審査を受け17年度に本審査を受審することと、それに向けた今後の作業の見通しについて報告があった。

2. その他

特になし

次回日程

9月上旬あたりを予定する。また、その間の受審への状況等については、必要に応じて電子メールを活用して、連絡を入れる。